

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0170502777		
法人名	社会医療法人共栄会		
事業所名	グループホーム まいホーム川下 1F		
所在地	札幌市白石区川下574-61		
自己評価作成日	平成29年 10月 20日	評価結果市町村受理日	平成29年11月30日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当事業所は敷地内に、同一法人が運営する病院や重度認知症ケア、介護老人保健施設があり、入居者様、御家族が安心して日々の生活を送れるよう連携を図っています。又、中庭の日本庭園や近所には川下公園もあり、自然豊かな環境の中で入居者様の心と身体の健康増進を進めています。又、ユニット間で積極的に交流を持ちグループホーム全体が楽しく笑いが溢れ、満足感のある日々を送れるように入所者様一人ひとりに心のこもったサービスを提供しています。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_2017_02_2_kihon=true&JigyosyoCd=0170502777-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉サービス評価機構Kネット
所在地	札幌市中央区南6条西11丁目1284番地4 高砂サニーハイツ401
訪問調査日	平成29年11月16日

「まいホーム川下」は白石区の郊外にあり、バス停から近く、周辺は公園や神社、企業、住宅が点在している。敷地内には運営法人の医療機関や複数の介護事業所が隣接しており、併設の事業所を含め災害時や法人研修、大型車両の借り入れ等で協力体制が構築されている。運営推進会議には毎回、町内会長や家族、行政の参加が得られており、それぞれの立場での情報や運営に関する意見があり、事業所の質の確保に活かしている。利用者や家族と馴染みの関係作りにも努め、家族に利用者の様子を詳細に報告し、また、家族参加型の行事を企画するなど、共に利用者を支え合う関係にある。職員は利用者をも自分の身内に置き換えて、女性利用者には母親に接するように、男性利用者には密にコミュニケーションを取るなど、人生の先輩として一人ひとりの個性を尊重する支援に努めている事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	いつでも振り返りが出来るよう、理念は見やすい場所に掲示している。又、ネームプレートに入れ、意識づけをし、日頃のケアを振り返っている。	利用者や地域との関係性を重視した事業所理念を策定し、事業所内に掲げている。さらに職員はネームプレートの裏面に記載した理念を携帯し、意識付けを図っている。会議等で事業所の原点である理念の実践を確認している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近所の家のお花を見せてもらったり、近くの公園、神社に散歩に行ったり、食事をしたり、お祭りに参加したりして交流をしている。	利用者は近くの公園で売店の店員さんと顔馴染みになったり、散歩中の親子連れに目を細め、また、地域の一員として神社の祭りや初詣に出かけている。敷地内の法人夏祭りには地域住民の参加を得ており、利用者にとって五感刺激になっている。	敷地内にある保育園から園児と利用者の交流を望む言葉かけがあるので、利用者の笑顔に繋がる実現に期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	近くの夏祭りに参加したり、町内の介護予防講座に参加したり、地域包括センターの方と話ししたりし、地域に向けて活かしている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者の状況やグループホームの取り組み等を報告し御家族からも意見が聞かれ、サービス向上に努めている。	会議は、町内会長、家族、包括職員、ホーム長始め、各ユニット職員の出席の下、定期的で開催している。現状報告に加え介護関連の知識や情報報告を経て、各メンバーからの意見や情報を得ている。家族の意見はケアに活かしている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	白石区保険福祉課に定期的に訪問したり、電話等で連絡取ったりしている。また白石区の管理者会議にも参加し、協力関係を築いている。	行政とは講演会や管理者会議、集団指導に参加し、さらに介護保険認定更新時や利用者の状況確認に訪れる担当者とは情報を共有するなど、協力関係を構築している。得られた意見や情報を運営に反映している。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	施錠を含め、身体拘束は行っていない。毎年、ミーティング時間を利用し勉強会をしている。	マニュアルを整備し、研修(法人・内部・外部)や勉強会等で理解に努め、身体拘束をしないケアに努めている。言葉遣いなどホーム長やリーダーが注意喚起を促し、正しい理解に導いている。玄関は施錠しているが、利用者の外出時は職員が同行している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	毎年ミーティングを利用し虐待についての勉強会を行い、日頃のケアを確認しあい虐待の防止に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護についての研修に参加し、その後、ミーティングで研修報告している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	事前に、見学・体験外泊等を通し、不安、疑問等聞き充分な説明を行い契約、解約、改定等の際にも理解に努める。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	普段から利用者、家族さんの意見を聞き会議等に家族さんに参加頂き意見の機会を設けており、運営に反映させている。	利用者の様子は、事業所便りや家族来訪時に伝えている。遠方の家族には、手紙や写真、電話で近況報告をしている。行先案内で家族の参加を促すなど、コミュニケーション作りに努めている。関わりから利用者や家族の意見を収集し、解決策を協議している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回のミーティング等に限らず、職員の意見を聞くように心掛けている。また、年に数回個人面談を行い職員の意向を聞き反映に努めている。	法人職員は都度来訪し、事業所の全体像を捉えている。ホーム長は、日々の業務や会議、個人面談等で職員の意見を把握し、運営や就業環境の整備に努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	毎年、人事考課を行っており、その結果を昇給に反映しており正職員への登用も有る。勤務状況では、あまり残業が無く、休暇も取得しやすい環境となっている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員一人一人の能力を踏まえ、法人内外の研修に参加を促しており、研修後の報告や、サービスの向上に努めている。また新人に対して研修の取り組みを行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修や会議等に積極的に参加し、交流する場を設けてネットワークづくりや勉強会を通じて、質の向上に取り組んでいる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	コミュニケーションを多く取ったり、様子観察し、不安な事や、要望等をお聞きし、安心して生活が送れるよう努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご本人同様、ご家族にも不安な事や悩み、ご要望をお聞きし、信頼関係を築けるよう努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	困っている事や、どのような生活を送りたいのか等をご本人やご家族に話をお聞きし、入居日にケアプランを作成している		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	人生の先輩という事を忘れず敬意の気持ちを持ち、料理の腕など得意な事を教えて頂き生活の中で生かしてもらえるようにしている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人と家族のお互いの思いを大事にとらえ家族には電話や面会時には本人の状態を報告相談している。日頃のケア、本人の理解に役立つ話を聞かせて頂いたり情報交換を行なっている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族との外出や面会、ご友人の面会等で関係を大切にしている。	利用者の要望に応え、馴染みの美容室や商店、食事処へ同行している。外出行事で地方へドライブの時は、出身地である利用者は毎回参加している。家族からも墓参りや食事等で協力を得ている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人一人の性格を考慮し、職員が間に入り関わりが持てるように努めている。又、コミュニケーションが取りづらい方には職員が関わるようにするなど、その方に合った支援をしている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要に応じて支援するようにしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の希望に沿うよう、話を聞いている。困難な場合は、気落ちする事の無いようホームでの生活を充実したものになる様に心掛けている。	利用者との何気ない会話の中から、○○が食べたい、○○に行きたい、身内が会いに来る日を教えて欲しいなどの要望が聞かれる。表情や言動からも汲み取り、職員はその実現に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人やご家族様から話しをお聞きし、GHの生活に生かせるよう努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	生活の様子を観察し記録に残し、情報を共有し把握に努めている。活動面も記録から参考にし、支援の繋げている		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人から要望をお聞きしたり、疎通が困難な方は、ご家族や担当者の話しを聞き、状態に合ったケアプランを作成している	ケアプランには、利用者の発した言葉を載せている。家族の思いも踏まえ、個別の記録や医療関係者、関わりのある介護施設関係者からの意見を参考に、利用者や家族の満足感に繋がるよう職員間で検討して作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人別の記録に介護計画をファイルし、実践した時やその結果等、記録に残し情報は共有出来ている。ケアプランの見直しの際は、記録や職員から情報を得て作成している		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	状態の変化に合わせて、計画を見直し対応している		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	土地柄、地域との関わりは頻繁に行えないが、地域のお祭りに参加したり、初詣に出掛ける等、可能な限り支援している		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	敷地内に病院があり、24時間連絡ができ、協力体制が整っている。又、状態に合わせて、必要な医療機関を受診するよう速やかに対応している	利用者全員が運営母体である24時間連絡体制の医療機関(内科・精神科・歯科)を受診し、さらに月1回皮膚科医の往診もある。他科の受診は、殆ど職員が同行している。看護師でもあるホーム長が日常の健康管理を行っている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	体調、バイタルサイン等外来看護師、ホーム長に相談しており適切な治療が受けられるよう努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院の際は、看護添書の提出、生活の様子を説明している。入院中は面会を通し職員より病状を教えてもらいケアプランを作っている。又日頃より、提携病院の外来にかかっている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時より重度化した場合の対応指針を説明し、実際に重度化した時、本人・家族・ホームの方針をすりあわせ本人が安心出来る様に環境を提供している。	契約時に重度化や終末期に於ける指針を説明し、同意を得ている。状態悪化時は家族や医療関係者と情報を共有し、最大限の支援に努めている。常時医療行為が生じた時点で、協力医療機関での支援としている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に外部の研修に参加し都度ミーティングで確認しあっている。今後体調の急変が起こると想定されている時も看護職員から事前に指導を受けている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災訓練は年2回行い、同一敷地内の施設と合同で訓練している。地震、水害の対応についてはミーティングで確認している。様々な避難方法を（毛布使用など）訓練している。	消防署と防災業者の指導の下、2カ所の系列事業所職員の参加を得て、併設の事業所と合同で水害を含む日中・夜間想定避難訓練を年4回実施している。火災通報装置と防火扉が連動しており、併設の事業所へ避難できる。災害時備蓄品は事業所と法人が備えている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	接する上で声掛けの仕方や態度、表情に気を付けて一人ひとりの人格を尊重し、トイレや入浴、更衣時にはプライバシーを配慮した対応を行っている。	接遇やプライバシーのあり方は、マニュアルや日常業務、法人研修等で学んでいる。様々な支援に於いての言葉遣いにも配慮している。個人関連の書類は適切に管理している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	何を思い希望しているのか直接本人から聞いたり、表情や言動から思いを汲みとり自己決定が出来るような働きかけを行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペース、習慣を大切にして職員の都合を優先せずに本人の希望に沿った支援を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人のこだわり、好みを大切に自身で洋服を選んでもらう事が出来るよう支援を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立は職員が考えている。いろどりの工夫をして食事の提供をしている。季節行事、誕生日の特別献立や外食なども楽しみにされています	夕食のみ業者から届いているが、ユニット毎に利用者の好みや旬の食材、彩り、栄養バランスに配慮して献立を作成している。利用者との食事作りを行い食卓を囲んでいる。菜園の野菜の活用や誕生日は希望を取り入れたり、季節に因んだ行事食や外食等で食の変化を図っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスの取れたメニューに配慮しており個別に食べやすく提供している。水分量についても摂取量の確認、好みの物を提供し水分不足にならないよう気をつけている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	本人の出来る力に合わせ毎食後に口腔ケアの見守り、介助を行っている。義歯は夜間にポリドントにつけ洗浄、除菌している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個人の排泄パターンを把握し失禁される方は尿とりパットやリハビリパンツを日中、夜間失禁量に合わせてあてている。トイレの声掛け、誘導を行っている。	自立排泄や夜間のみポータブルトイレを使用する利用者があるが、排泄チェック表を活用し、トイレでの排泄支援を行っている。衛生用品の使用は職員間で検討しており、その結果使用量が軽減した事例がある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便を把握し、便秘傾向の時は追加下剤の内服前に乳酸菌飲料を提供している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	本人の体調に合わせて週2回行っている。入浴出来ない時は足浴や清拭で対応。入浴中は普段話さない事が話題となる事があり楽しめている様子。皮膚状態の観察も併せて行っている。	毎日入浴出来るが、週2～3回を基本とし、同性介助や回数などの要望に応えた入浴支援を行っている。状態により2人介助もあるが、利用者の出来ない部分への支援に努め、入浴剤入りの湯船で寛いだ中から利用者の思いが把握できている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの睡眠リズムを把握し安心する声掛けや、環境を整えて気持ち良く眠れる様支援している。日中でも疲れている様子が見られる時は一声かけ、自室でお休み出来るようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方薬の内容、目的、副作用について理解し慎重に取り扱っています。体調観察を小まめに行い、状態の変化を確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	袋たたみやテーブル拭きなど一人ひとりやりがいを感じて頂けるように支援しています。外出、外食、散歩を取り入れ、気分転換を取り入れている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日常的に散歩の声掛けを行い戸外に出る事を支援している。又、外食等、買い物の希望にも添えるよう努め、季節によりレクを計画実行している。	公園や神社など周辺の散歩やデイケアの利用、中庭のベンチで日光浴、敷地内の病院にある売店での買い物や他の区での買い物、菜園の手入れ等で、日常的に外出している。家族参加型のバスレクを企画し行楽地を訪れている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	希望に応じ、衣類、生活用品などの買い物に同行し、本人と相談しながらお金の使い方について支援を行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙、ハガキ、電話の仲介を行い、家族等のつながりで安心して暮らせる支援をしている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節ごとに飾りつけを行ったり(特に手作り品)スナップ写真集では入居者さんとコミュニケーションが取れるなど、明るく居心地の良い空間作りに努めている。	全体的に広々とした造りで明るく、温湿度や清掃にも配慮がある。廊下の窓辺には観葉植物が置かれ、壁面には落葉をモチーフにした作品や日常を撮った写真等を掲示している。安定した生活空間になる様、居間には音楽が静かに流れている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テレビや新聞、音楽鑑賞など個々が楽しめたり、雑談できたりと楽しめる場所の支援をしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族の写真や仏壇、賞状など思い入れのある品を置いたり、心地良く過ごせる工夫をしている。	入居時には馴染みの家具類の持ち込みを勧めている。大きめのクローゼットに生活用品が収納され、移動スペースが確保されている。テレビ、仏壇、利用者の作品である絵画や書などが飾られており、その人らしい居室作りが行われている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりの状況に応じ、安全な移動が確保できたり、分かりやすい表記で場所の説明をしている。		